

令和3年度 京都市立石田小学校 学校教育目標及び経営方針

学校教育目標

意欲的に学び よりよい自分を目指し続ける子

学校経営方針

目指す子ども像	目指す教職員像	目指す学校像
<ul style="list-style-type: none">・自信をもって将来を語れる子・自他を大切にし、「時」「場」「相手」に応じた言動をとれる子	<ul style="list-style-type: none">・職責を自覚して主体的に取り組む教職員・互いに刺激し合って高まりながら、前向きに働き方改革を推進する教職員	<ul style="list-style-type: none">・豊かな人権感覚をもち、学習・生活規律を守り切ることで、一人一人がいきいきと活躍できる学校・保護者、地域とも連携し、子どもたちに明確な将来展望をもたせることができる学校

～学校経営の重点～

1. 学力向上実現のため、キャリア教育を視点にし、将来展望や学習に対する目的意識をもたせることを通して、主体的な学びに向けた取組を推進する。
2. これまでの石田小学校の取組の成果と課題を踏まえ、小中一貫校創設と一次統合に向けて、4小中での計画的な連携と具体的な取組を進める。
3. 学習指導要領及びGIGAスクール構想に即した学びを実践するため、教職員が主体的に自己研鑽に努め、具体的な目指す子どもの姿を意識して、計画的かつ組織的な教育活動を行う。
4. 石田小学校の締めくくりと一次統合に向けて、積極的に協働と共助に努め、より効果的かつ効率的で持続可能な実践や取組を行う。

目指す子ども像に迫るために

知	<ul style="list-style-type: none">・学びの約束やルールを徹底し、意欲的に学ぶ集団作りを目指す。・生き方探究パスポートを活用し、学ぶことの必要性に気付き、学習に対する目的意識と意欲を向上する。
確 か な 学 力	<ul style="list-style-type: none">・学習後の具体的な姿を意識して「問い合わせ」を重視した授業展開を行い、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業を実践する。・小学校英語の充実をはかり、豊かなコミュニケーション能力を育成する。・GIGA 端末等の ICT 機器や「学習・情報センター」として学校図書館を活用し、思考力・判断力・表現力を育成する。・読書マラソン等の読書活動を推進し、言語能力や読解力を高める。・家庭学習について全校で系統性のある指導を継続し、自学自習の習慣化を図る。
徳 豊 か な 心	<ul style="list-style-type: none">・1年間の子ども達の成長を見通し、支え合い、高め合う学習集団づくりを実践する。・児童会活動、たてわり活動を通して、子どもの主体性と自尊感情を高める。・自分からあいさつをする習慣、ルールやきまりを守り切らせる指導により、規範意識を醸成し、全ての児童が安心して過ごせる集団をつくる。・様々な人権の視点について理解と認識を深める取組を計画的に行い、人権感覚をもって自他の言動をとらえられる力を高める。・超スマート社会に対応できる情報モラルを含めた情報活用能力を育てる学習を計画的系統的に行うとともに、正しい判断力を身に付けさせる。・いろいろな体験活動や文化芸術に触れる体験を通じて豊かな感性や情操を育む。・スクールカウンセラーを有効活用することで、困りのある子どもや保護者へ有効な働きかけと支援を行う。
体 健 や か な 体	<ul style="list-style-type: none">・体育学習及び運動部活動の充実を図り、その楽しさや喜び、達成感や成就感を味わわせる。・たてわり遊びやクラス遊びの機会を活用し、運動する習慣やコミュニケーション能力を身に付けさせる。・望ましい基本的生活習慣を実践する力を育てると共に、家庭への働きかけを継続する。・学年、発達段階に応じた系統だった飲酒、喫煙、薬物に関する学習を行う。・食育の充実により将来にわたって健康な生活を送る基礎・基本を身に付けさせる。・食物アレルギーのある児童に対して、適切な対応と保護者との密な連携を継続する。・計画的な安全教育を実施し、様々な危険から身を守るための知識と判断力を身に付けさせる。

目指す教職員像に迫るために

- ・「子どもの命を守り、育む」教育を徹底する。(いじめ・被虐待・不登校・薬物乱用)
- ・子どもや保護者が安心して過ごせるために、ブレない指導を行う。
- ・学習指導要領や GIGA スクール構想の趣旨・内容についてさらに理解を深め、自ら主体的に学ぶ姿勢を表し、自己研鑽を積み指導力を向上させる。
- ・個々のワークライフバランスを尊重し合い、時間を意識した効率のよい働き方を模索し、心身共に健康な状態で児童に向き合うために、働き方改革を推進する。
- ・「立派な人間を育てる」ということを意識し、「子どもだから」と勝手に子どもの限界を設定しない。
- ・「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を迅速かつ組織的に行う。
- ・一人一人が主体的にすき間を埋めていける教職員集団を形成する。

目指す学校像に迫るために

- ・大人として教職員が児童の見本となる言動に努めることで、お互いを認め合い、人権が尊重される学校をつくる。
- ・被虐待・不登校・学力向上・発達の特性等「困り」を抱える児童一人一人に対する効果的な支援を行う。そのために、児童相談所・諸学校・放課後デイサービス・子どもはぐくみ室・福祉・保健等関係諸機関との積極的な連携を深める。
- ・学力向上実践推進事業重点支援校として、育てたい資質・能力を共通理解し、9年間の学びの具体的なイメージをもって、小中連携・小小連携のさらなる充実を図る。
- ・統合、小中一貫校創設についての情報発信に努め、地域も含めてよりよい「石田」を目指す。
- ・学校評価を活用し、子どもや保護者、地域のニーズに応じた教育活動の改善を図る。